



幅広い世代が参加し震災と復興を学んだ（JEAS提供）

開催している。今回は東日本大震災の被災地を巡り、大規模災害への備えや協働で復興を目指す大切さを学ぶことを目的に行った。0歳から70歳まで幅広い世代の42人が参加した。

参加者は茨城県・牛久駅に集合しバスで出発。車内

ではアドバイザーとして参加した経済産業省大臣官房福島復興推進グループ（福島事業・なりわい再建支援室）大星光弘室長が東日本大震災について講話した。

参加者は午前「東京電力廃炉資料館」、午後は「道の駅なみえ」の施設を見学。浪江町役場企画財政課政策推進班（経産省派遣職員）下地和樹氏が復興状況について説明した。

さらに高さ15メートルの津波が押し寄せたが全員避難し、奇跡的に校舎の倒壊も免れた「請戸小学校」を見学。児童らが駆け上って津波被害を逃れた「大平山」では、命を落とした住民182人

の名前が刻まれた慰霊碑に全員で黙とうを捧げた。

セミナー終了後、多くの学びを得た参加者から「来年もぜひ参加したい」との声があった。